

## 「財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型」 2016年4-6月の運用状況と今後の見通しについて ～市場の乱高下を受け、基準価額は変動高まる展開に～

2016年4-6月の金融市場は、世界的に変動の大きい展開が続きました。主な背景として、4月末の日銀の金融政策決定会合で市場の期待に反して追加緩和が見送られたことや、6月に行なわれたEU(欧州連合)離脱の是非を問う英国民投票の影響を受け投資家のリスク回避姿勢が一段と強まったことが挙げられます。こうした動きを背景に、日本では株安や円高が進むこととなりました。

こうしたなか、当ファンドの4-6月の基準価額騰落率は▲4.6%(注)、直近1年では▲10.3%(注)となりました。

(注)税引前分配金再投資ベース

次ページ以降では、2016年4-6月の3ヵ月間の運用状況と今後の見通しについてご説明いたします。



### 設定来の基準価額と分配金額の推移 (2003年8月5日(設定日)～2016年6月30日)



基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資ベース)	2016年4月	2016年5月	2016年6月	4～6月
	0.05%	-0.27%	-4.36%	-4.57%

基準価額(税引前分配金控除後)	2016年3月末	2016年4月末	2016年5月末	2016年6月末
	5,479円	5,430円	5,365円	5,083円

※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金額は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。  
 ※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したもものとして計算した理論上のものである点にご留意ください。  
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

当ファンドの運用状況(2016年4-6月)

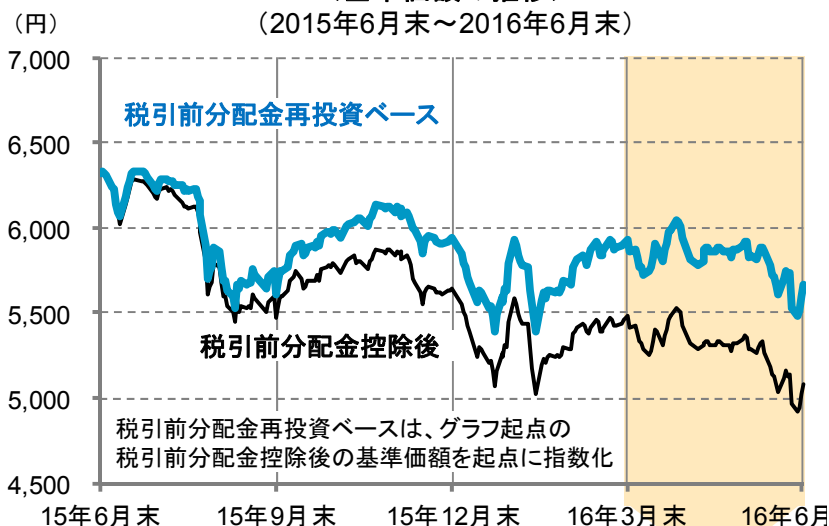
リスク回避の動きを背景に債券が買われた一方で、円高傾向が重石に

当ファンドの基準価額は、2016年6月末時点で5,083円(信託報酬控除後、1万口当たり)となり、4-6月の期間騰落額は▲396円となりました。また、この期間にお支払いした分配金の合計額150円(税引前、1万口当たり)を考慮した騰落額は、▲246円となりました。

基準価額変動の要因分解をみると、4月はJ-REIT、5月は日本株式がプラスに寄与したものの、英国国民投票の影響を受け、円高傾向が強まったことなどから、6月に日本株式や海外債券の為替要因がマイナスに寄与し、基準価額を大きく押し下げました。ただし、投資家のリスク回避姿勢が強まるなか、安全資産として債券が買われたことから、海外債券の債券要因は四半期を通じて基準価額の下支えに寄与しました。

<基準価額の推移>

(2015年6月末～2016年6月末)



2016年6月30日現在

【基準価額】

5,083円

(税引前分配金控除後)

【純資産総額】

3,376億円

※ 基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の1万口当たりの値です。

※ 税引前分配金再投資ベースは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

<基準価額変動の要因分解>

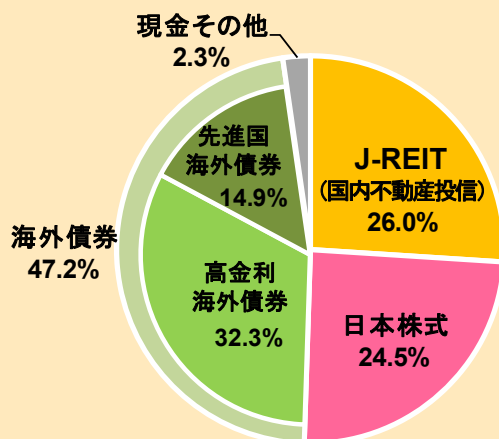
(2016年4月～2016年6月)

	4月	5月	6月	4～6月
J-REIT	24円	▲18円	▲35円	▲30円
日本株式	▲7円	46円	▲130円	▲92円
海外債券	▲11円	▲38円	▲61円	▲110円
うち債券要因	13円	17円	61円	91円
うち為替要因	▲24円	▲55円	▲122円	▲201円
市場要因合計	5円	▲10円	▲227円	▲232円
信託報酬・その他	▲4円	▲5円	▲5円	▲14円
分配金	▲50円	▲50円	▲50円	▲150円
基準価額の変動額	▲49円	▲65円	▲282円	▲396円

※基準価額の変動要因分解は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。  
なお、データは端数処理をしており、合計が一致しないことがあります。

<資産構成比>

(2016年6月末現在)



※上記は、対純資産総額の比率です。  
※上記数値は四捨五入の関係で、合計が一致しないことがあります。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

J-REIT(国内不動産投信)

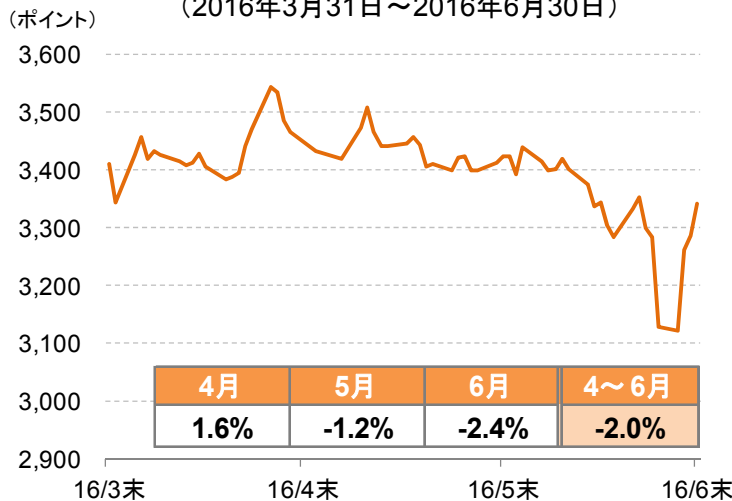
もみ合いの動きが続くも、英国のEU離脱選択に伴うリスク回避の動きで軟調な展開に

4-6月のJ-REIT市場は、東証REIT指数(配当込み)で、2016年3月末比▲2.0%となりました。

4月下旬は、日銀の追加金融緩和期待などから上昇基調となりました。その後は、国内株式市場や世界的なREIT市場の上昇基調が下支えとなったものの、長期金利の低下が一服したことや、公募増資発表に伴う需給悪化懸念などを背景に、J-REITは上値の重い展開となりました。

6月は、国内株式市場の下落基調や、英国の国民投票でEU離脱が選択されたことに伴ない投資家のリスク回避姿勢が強まったことから、J-REITは下落基調となりました。期末にかけては、日銀による追加緩和期待などを背景に反発し、急速に下げ幅を縮めました。

＜東証REIT指数(配当込み)の推移＞  
(2016年3月31日～2016年6月30日)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日本株式

英国のEU離脱選択などを背景に円高・米ドル安が進み、日経平均株価は急落

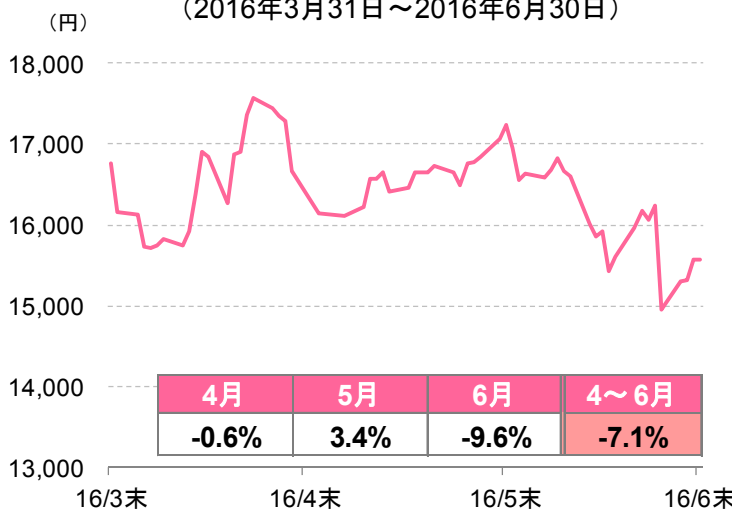
4-6月の日本株式市場は円高・米ドル安の進行などが重石となり、日経平均株価は、2016年3月末比▲7.1%となりました。

4月下旬にかけて、原油価格の持ち直しや日銀の追加緩和期待などを背景に株価は上昇したものの、月末に日銀が市場予想に反して追加緩和を見送ったことで急落するなど、変動の大きい展開が続きました。5月下旬にかけては、原油価格の上昇や日本の景気対策への期待感などを背景に株価は持ち直しをみせました。

6月に入り、英国のEU離脱の是非を問う国民投票の影響で投資家のリスク回避の動きが強まると、円高・米ドル安の進行とともに株価は急落し、日経平均株価は一時1万5,000円を下回る場面もありました。期末にかけては、円高傾向に歯止めが掛かり、株価はやや持ち直しました。

＜日経平均株価の推移＞

(2016年3月31日～2016年6月30日)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

海外債券

投資家のリスク回避姿勢を背景に債券は  
堅調に推移するも、円高傾向が下押し

4-6月の海外債券市場は、安全資産として債券が買われた一方で、円高が進み、海外債券合成指数(右グラフ)の騰落率は2016年3月末比▲4.1%となりました。

<債券市場>

海外高利回り国の債券市場は、原油価格の上昇などを背景に投資家のリスク回避姿勢が弱まり、5月上旬にかけて堅調に推移しました。その後、米国の利上げ観測に伴う新興国からの資金流出懸念を背景に下落したものの、5月下旬以降は米利上げ観測が後退し、再び堅調に推移しました。

海外主要国の債券市場は、米国の利上げ観測などを背景に軟調となる場面もあったものの、6月には、軟調な米雇用統計の発表などを背景に米利上げ観測が後退したほか、英国のEU離脱選択に伴う先行き不透明感を背景に安全資産としての債券買いの動きが強まり、堅調に推移しました。

<為替市場>

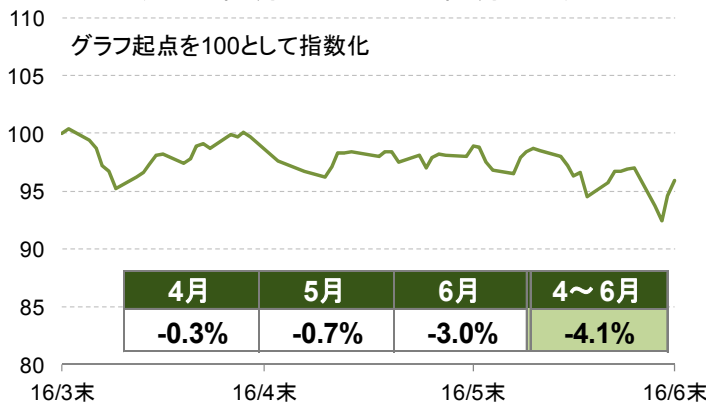
為替市場では、4月下旬にかけて、原油などの資源価格の上昇が資源国通貨などの押し上げ要因となりました。また、投資家のリスク回避姿勢が弱まったことで、円が売られた一方、主要国通貨が買われました。しかし、月末には、日銀が市場予想に反して追加緩和を見送ったことを受け、総じて円高傾向となりました。

さらに、6月には英国のEU離脱懸念を背景に、投資家のリスク回避に伴う円買いの動きが強まり、高利回り国通貨および主要国通貨は対円で大きく下落しました。

(右グラフについて)

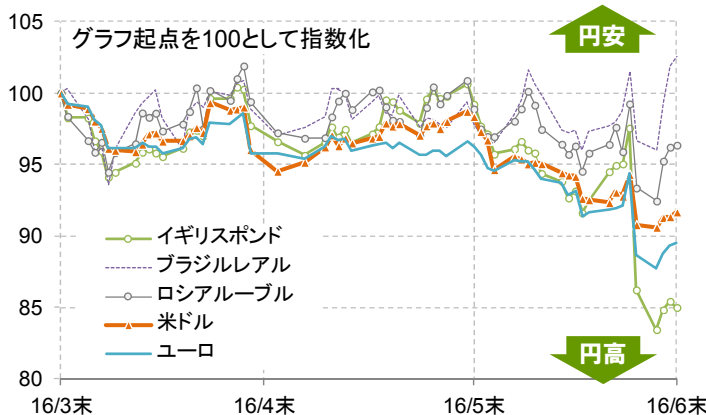
※比率は「高利回りソブリン債券インデックスファンド」および「海外債券インデックス(ヘッジなし)マザーファンド」の組入公社債時価総額の合算値に対する比率です。  
※数値は四捨五入の関係で、合計が100%とならないことがあります。

<海外債券\*の推移(円ベース)>  
(2016年3月31日~2016年6月30日)



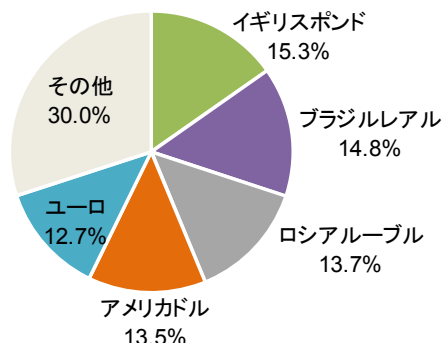
\*「パークレイズ・インターナショナル・ハイインカム・ソブリン・インデックス(ヘッジなし・円ベース)」と「シティ世界国債インデックス(除く日本、ヘッジなし・円ベース)」の日次騰落率を7:3の比率で合成した指数を掲載しています。

ご参考:主要通貨(対円)の推移  
(2016年3月31日~2016年6月30日)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

<公社債通貨別組入比率(債券全体)>  
(2016年6月30日現在)



※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型」へのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。



今後の見通し

足元で不透明感が残るも、J-REITを中心に底堅さが期待される

J-REIT  
(国内不動産投信)

不動産市況や投資環境の改善を背景に、緩やかな上昇が見込まれる

- 都心のオフィスで空室率の改善傾向や賃料上昇が続いているほか、ホテルではインバウンド(訪日外国人)需要が追い風となるなど、不動産市況は引き続き改善基調となっています。
- また、日銀のマイナス金利政策や世界経済の先行き不透明感などを背景に、長期金利は低下傾向が続いています。こうしたなか、J-REITの利回り面の投資妙味が一段と高まるとみられるほか、支払利息の減少を通じた収益拡大が期待されます。
- 当面、不安定な相場展開が見込まれるなか、今後も投資家のリスク回避的な動きを受け、J-REIT市場は短期的に調整する可能性があります。ただし、不動産市況やJ-REITの投資環境の改善を背景に、J-REITは業績回復や資金流入が続くと期待されており、緩やかな上昇が見込まれます。

海外債券

主要国債券・高金利債券ともに緩和的な金融環境が支援材料に

- 主要先進国では、米利上げペースが一段と緩やかになるとの見通しや、日欧における緩和的な金融政策の継続、英国のEU離脱を巡る不透明感などを背景に、中期的に国債利回りの緩やかな低下(債券価格の上昇)が見込まれます。
- 新興国や資源国などの高金利債券は、主要先進国において低金利環境が続くなか、相対的に高い金利水準が魅力となり、投資家の注目を集めると期待されます。また、米利上げペースの鈍化見通しなどを背景に、新興国からの資金流出懸念が後退しつつあることは、高金利債券にプラスに働くと期待されます。
- 為替市場では、日本で積極的な金融緩和政策が続くなか、米国の堅調な経済成長や、ユーロ圏の経常黒字の継続などを背景に、主要国通貨に対して円高は進みづらいと見込まれます。また、新興国などの高金利通貨は、投資家のリスク回避的な動きが下押し圧力になると見込まれるものの、多くの新興国で経常収支の改善や外貨準備の積み上げが進んでいることは、通貨の追い風になると考えられます。

日本株式

円高が逆風となるも、株価の割安感や企業経営の改善が後押し

- 足元では、英国のEU離脱選択に伴う世界経済の先行き不透明感や円高進行が日本株式にとっての逆風となっており、英国のEU離脱が、世界経済に与える影響の大きさを見極める過程ではやや不安定な株価動向が続く可能性があります。
- 国内景気は力強さに欠けるものの、法人税率の引き下げの前倒しなどが追い風となり、今年の1-3月期の日本企業の業績は非製造業を中心に堅調となりました。今後は、円高傾向などを背景に、企業業績見通しの下方修正が見込まれるものの、足元の株価水準には割安感が強いとみられることに加え、更なる円高は進みづらいと考えられることから、日本株式は底堅い推移が見込まれます。
- 中期的にみると、日本企業の経営は、欧米企業と比較して見劣りするROE(自己資本利益率)を高めるため、将来に向けた投資や自社株買いなどの株主還元を積極化するなど、構造的に変化し始めており、こうした取り組みが株価の押し上げ要因になると見込まれます。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

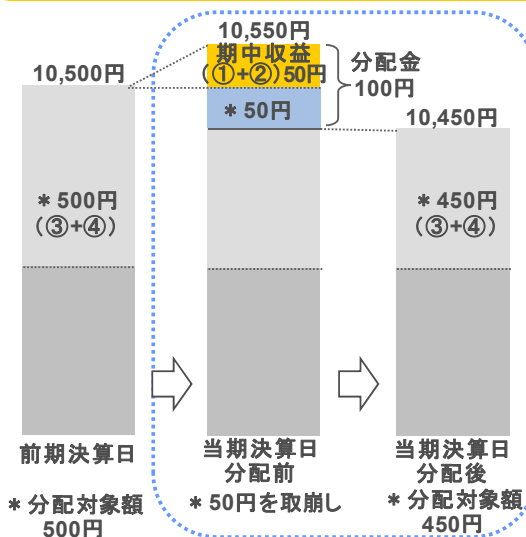
### 投資信託で分配金が支払われるイメージ



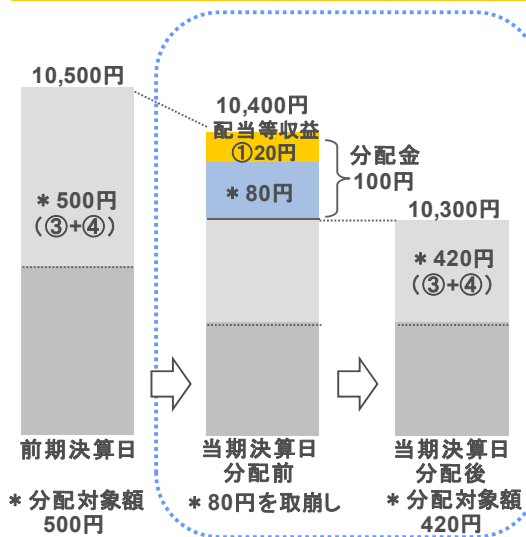
- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算から基準価額が上昇した場合



#### 前期決算から基準価額が下落した場合

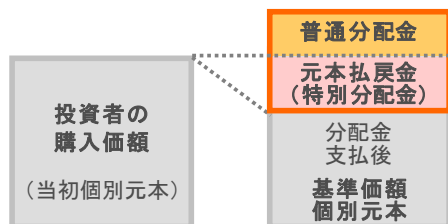


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

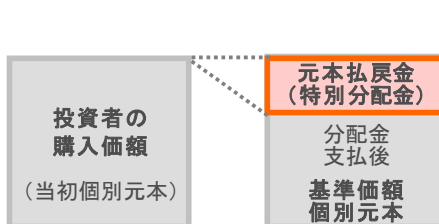
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

**普通分配金** : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。  
**元本払戻金(特別分配金)** : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

## ファンドの特色

- 1 投資信託証券への投資を通じて、3つの異なる資産に分散投資します。
- 2 原則として、各資産の基本組入比率は不動産等**25%**、債券**50%**、株式**25%**とします。
- 3 原則として、毎月、安定した収益分配を行なうことをめざします。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。



## ■お申込みに際しての留意事項

### ○リスク情報

●投資者の皆様のご投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

●当ファンドは、主に不動産投信、債券および株式を実質的な投資対象としますので、不動産投信、債券および株式の価格の下落や、不動産投信、債券および株式の発行体の財務状況や業績の悪化、不動産の市況の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

### 【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### ○その他の留意事項

●当資料は、投資者の皆様にご「財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型<愛称:財産3分法ファンド>」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。

●当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。

●投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。

●投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様にご帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

■当資料は、投資者の皆様にご「財産3分法ファンド(不動産・債券・株式)毎月分配型」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込メモ

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
ご購入単位	購入単位につきましては、販売会社ないしは委託会社の照会先にお問い合わせください。
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
ご購入不可日	購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日に該当する場合は、購入のお申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
信託期間	無期限(2003年8月5日設定)
決算日	毎月10日(休業日の場合は翌営業日)
ご換金不可日	換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日に該当する場合は、換金請求の受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

■手数料等の概要 お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

＜お申込時、ご換金時にご負担いただく費用＞	
購入時手数料	購入時手数料率は、 <u>3.24%(税抜3.0%)</u> を上限として販売会社が定める率とします。 ※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金時の基準価額に <u>0.3%</u> の率を乗じて得た額
＜信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用＞	
信託報酬	純資産総額に対して、 <u>年率1.026%(税抜0.95%)</u> を乗じて得た額
その他費用	組入有価証券の売買委託手数料、監査費用、借入金の利息、立替金の利息など ※その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。
※当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。 ※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。	



■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
受託会社	野村信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については、下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] <a href="http://www.nikkoam.com/">http://www.nikkoam.com/</a> [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○		○
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第2号	○		
株式会社足利銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第43号	○		
株式会社阿波銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第1号	○		
株式会社イオン銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第633号	○		
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第6号	○		○
池田泉州TT証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第370号	○		
株式会社伊予銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第2号	○		○
いよぎん証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第21号	○		
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○		
SMBC日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2251号	○	○	○
SMBCフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第40号	○		○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○
株式会社大分銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第1号	○		
沖縄県労働金庫	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第8号			
株式会社香川銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第7号	○		
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第117号	○		○
九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第39号			
株式会社京都銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第10号	○		○
株式会社きらやか銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第15号	○		
近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第90号			
株式会社群馬銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第46号	○		○
ごうぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第43号	○		
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第1号	○		○
株式会社山陰合同銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第1号	○		
株式会社滋賀銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第11号	○		○
株式会社四国銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第3号	○		
四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第26号			
静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第72号			
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第5号	○		○
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○		○
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第6号	○		
株式会社常陽銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○
株式会社親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第3号	○		
スルガ銀行株式会社	登録金融機関	東海財務局長(登金)第8号	○		
株式会社第三銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第16号	○		
株式会社第四銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第47号	○		○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○		

(次ページに続く)

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

(前ページから続く)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会	
株式会社千葉興業銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第40号	○		○	
中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第259号				
中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第53号				
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第140号	○		○	○
株式会社東邦銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第7号	○			
とうほう証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長(金商)第36号	○			
東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第68号				
株式会社東和銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第60号	○			
株式会社徳島銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第10号	○			
株式会社栃木銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第57号	○			
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○			
株式会社富山銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第1号	○			
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第24号	○			
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第11号	○			
長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第268号				
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第6号	○		○	
西日本シティTT証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長(金商)第75号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
株式会社八十二銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第49号	○		○	
浜銀TT証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第1977号	○			
株式会社肥後銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第3号	○			
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長(登金)第5号	○		○	
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
株式会社福井銀行	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第2号	○		○	
株式会社北都銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第10号	○			
株式会社北洋銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第3号	○		○	
北陸労働金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第36号				
株式会社北海道銀行	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第1号	○		○	
北海道労働金庫	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第38号				
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
株式会社みちのく銀行	登録金融機関	東北財務局長(登金)第11号	○			
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第54号	○		○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第181号	○	○		
株式会社みなと銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第22号	○		○	
株式会社南日本銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第8号	○			
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第5号	○			
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第38号	○			
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第12号	○		○	
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第6号	○		○	
株式会社山梨中央銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第41号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○
株式会社琉球銀行	登録金融機関	沖縄総合事務局(登金)第2号	○			
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第8号	○			

(50音順、資料作成日現在)

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。